

抗 議 文

株式会社東京放送

代表取締役社長 井上 弘 様

平成20年2月16日午後7時より放送の「歴史王グランプリ2008まさか!の日本史雑学クイズ100連発」という番組内において、当市の若松城(番組内では会津若松城)を題材とした「旧幕府軍が城を明け渡したとんでもない理由とは」という出題に対し、「糞尿が城にたまり、その不衛生さから」という解答が正解とされ、あたかもそれが全ての理由であるかのように放送されました。

しかしながら、旧幕府軍、つまり会津藩が城を明け渡した原因は、同盟諸藩の降伏により他藩からの応援の望みが絶たれたことや、1ヶ月にも及ぶ籠城による傷病兵の増加や物資の枯渇など、様々な要因が重なったものであり、排泄物の処理が困難であったという事が主な開城理由ではなく、この度の放送は視聴者に著しい誤解を与えるものであり、本市をはじめ数多くの方々に不快感を与えたものであります。

また、本市と財団法人会津若松市観光公社は、当該番組制作会社「有限会社リライダーズ」からの資料等の問い合わせにより、番組放送直前に今回の放送内容を知るに至り、若松城のイメージを大きく損なう恐れがあること等から、放送内容の見直しを再三申し入れたにもかかわらず、放送された経過にあります。

更には、同番組内において司会者が、旧幕府軍が若松城を新政府軍に明け渡したことを「旧幕府軍が城から逃げ出した」と表現しておりますが、会津藩をはじめとする旧幕府軍は、籠城期間中、城内に一兵も敵の侵入を許さず、降伏にともなって開城したのであり、「逃げ出した」とするのは、会津をめぐる一連の戦い、いわゆる、会津戦争に参加した全ての将兵と戦没者を侮辱するものであり、明ら

かに史実を歪曲していると言わざるを得ません。

本市の放送見直しの申し入れにもかかわらず、このような歴史を歪曲し視聴者に誤解を与える放送がされたことは、最後まで非戦の道を探りながらも、朝敵として戦わざるを得ない状況に追い込まれ、最後には無念の降伏をせざるを得なかった会津藩を愚弄し、引いては本市の印象を不当に貶め、義を貫く会津武士道に生きた先人と若松城を郷土の誇りとしてきた全ての会津人の心情を踏みにじるものであり、到底受け入れることができるものではありません。

ここに嚴重に抗議するとともに、今回の放送に対する本市市民への謝罪と釈明について貴職からの誠意ある回答並びにしかるべき時間帯での当番組に対する訂正と謝罪の放送を求めます。

平成20年3月24日

会津若松市
市長 菅家一郎

財団法人会津若松市観光公社
理事長 宮森泰弘

会津若松観光物産協会
会長 菅家一郎